

FOCUS UP

史上初! 男女混合の公式戦“チャンピオンズカップ”をスポンサード



12期のプロボウラーでもある住建ハウジングの羽田会長



3月15日に開催が決まった新設トーナメント「住建ハウジングプレゼンツ・チャンピオンズカップ」は、50年以上にわたる日本プロボウリング協会の歴史でも初の、男女混合の公式戦(特別公認)として行われるほか、さまざまな新しい試みが盛り込まれる予定だ。この大会の冠スポンサーである株式会社住建ハウジングにおじゃまして、同社の羽田晴喜会長らに、大会実現までの経緯や、この大会にける思いをうかがった。

「一度灯った火が どんどん大きくなって」

(株)住建ハウジングの羽田晴喜会長は、今もプロライセンス(12期・No.387、登録名・山中晴喜)を所持するプロボウラーでもある。交流のある矢島純一プロの海外遠征などはサポートしてきたが、トーナメントスポンサーの要請は断り続けていた。「矢島プロにも、トーナメントは絶対にやらないとっていたんです。それがちょっとしたことで火がついて…、じゃあトーナメントを1本スポンサーしようかぐらいのスタートから、話がどんどん大きくなっていった。最初は反対でプレーキ役だった弊社の野村(和弘)社長と鳥飼(豊)本部長が、私以上に前

のめりになってきたのにも背中を押されました(笑)」当初は男女それぞれ優勝賞金200万円の案だったそうだが、実行委員会で会議を重ねるうちに、ワンデートーナメントとしては異例の優勝賞金500万円、賞金総額も2600万円にふくらんだ。「出場を男女各34名に絞り、半分をランキング上位選手、半分を予選会で選抜するという案でしたが、女子は日程的に予選の実施が難しいということで、そのままランキングで決定し、男子はシーズントライアルを予選にあてることにしました。当初は3日間大会の予定でしたが、地方から参加するプロの宿泊費等、経費の負担を抑えようということで、ワンデートーナ

メントということにしました」最下位でも20万円の賞金が得られるなど、参加プロに手厚い配慮がされている。そしてなんとといっても注目されるのが、公式戦としては史上初の男女混合戦として行われることだ。女子には1G8ピンのハンデが与えられるとはいえ、ひとつのタイトルを男女で争うことになる。「私と社長は、ボウリングのトーナメントについては何も知らなかったため、トーナメントを下見に行きました。とくに最初に見た男子のトーナメントでは、観客もほとんどいないし、活気がなかった。こんな状況で大会を作るのはいかななものですか、と会長に進言したのですが、それなら業界に一石を投じるようなものをやろうじゃないかと、逆に火がどんどん大きくなっていった。その後女子のトーナメントも視察に行きましたが、こちらは250人ぐらいの観客で埋まっていた。じゃあ男女混合でやたらどうだ、という会長のアイデアで、企画が動

きだしました」と、鳥飼本部長。もちろんプロボウリング協会としては、前例がないうえに、協会の規定に抵触するために抵抗があったことは想像に難くないが、谷口健会長が理事会に諮り、特別公認という形での実施が決定した。

「プロトーナメントのあり方に一石を…」

大会の演出について、野村社長は「男女混合や賞金額に注目が集まると思いますが、大会中も見せ方もいろいろ工夫を凝らす予定です。例えば、競技中にも、ラウンドリポーターがどういう状況になっているのかをお客様にアナウンスしたり、試合中でも選手にインタビューをする可能性もあります。まだディスカッションをしている途中ですが、今までやっていないようなことを、たくさん取り入れていこうと思っています」と意欲を見せる。

一方で羽田会長は「長年、しかも苦しい時代にボウリング界に尽力されてきた人々があって今日があるわけです。だからいきなりやってきて好き勝手にやっているとされるのは、本意ではないんです。野球やサッカーはおろか、ラグビーやバスケットボール、卓球などよりも注目度が低い現状を、なんとか打破するきっかけのひとつになればと思っています」と語る。

1974年に狭き門を突破してプロ入りしたものの、プロとしての活動は短かった。しかし実業界に転身して成功を収めても、ライセンスは返上することなく持ち続けてきた。手塩にかけて育て、プロの世界に導いてくれた恩師・石川雅章さん(1期・元JPBA会長)が2010年に急逝したときには、その恩返しにとメモリアルトーナメントを企画、実現目前までこぎつけたが、大会予定日の10日前に東日本大震災が発生、中止を余儀なくされた。

「ゴルフの日本シリーズのように、その年活躍したプロを集めたチャンピオンズカップとして、本当は12月にやりたかったです。ただ日程調整がつかなくて、意図したわけではない



▲実行委員会に名を連ねる住建ハウジングの左から羽田会長、野村社長、鳥飼本部長。「私たち3人が時間を取られすぎて本業が心配(笑)」と羽田会長

けど気がつく、実現しなかった石川先生のメモリアルトーナメントと、日にちもほぼ同じ、会場も同じ東京ドームボウリングセンターでやることになっていました。またプロのライセンスをどこかのタイミングで返上していれば、今回のこともなかったと思います。そういう意味で、なにか不思議な縁を感じます」

JBC 第48回全日本クラブ対抗ボウリング選手権 パピオA(福岡)が初優勝 1月17~19日/桃園シティボウル



▲初優勝のパピオA

『第48回全日本クラブ対抗ボウリング選手権大会』は、47チーム(5人チーム)が参加して福岡・北九州市の桃園シティボウルで行われた。予選(レギュラー方式9G)の上位24チームが決勝に進出。決勝は12チームずつA、Bグルー

プに分かれ、ベーカー方式による総当たり戦を行い、その時点の同順位同士が2Gのポジションマッチを行った。総当たり戦をAグループ1位の愛知・サンボウル(早川・今井・徳永・川口・高平)と、Bグループ1位の福岡・パピオA(國友・四

宮・升水・山口・中野)の対戦は、1G目を256:226で制したパピオAが、2G目は競り負けたものの、初優勝を飾った。2位には、総当たり戦をAグループ2位の和歌山グランドA(伊勢川・松村・川口・金谷・山本)が、サンボウルを1点逆転して入った。

ダンコーエンボウルで 静岡県恒例の新春フェス

今年で44回を数える静岡県ボウリング場協会主催の新春恒例イベント“ボウリングフェスティバル”が、1月18、19の両日、伊東市のダンコーエンボウルで開催された。東京、千葉、群馬など県外からを含む70チーム(3人チーム)が参加して初投げを楽しんだ。また初日の夜にはホテル暖香園の宴会場に場所を移して、懇親会が行われた。こちらを楽しみに毎年参加している方も多く

て、センター対抗のかくし芸やのど自慢、また抽選会などで大いに盛り上がっていた。



▲夜の懇親会では、かくし芸大会も



▲県内外から70チームが参加した